令和２年度第１回仙台市科学館協議会会議録

日　　時　令和２年10月23日（金）　14：30～15：30
場　　所　仙台市科学館特別展示室
出席委員　磯部裕子委員，伊藤仟佐子委員，加藤けんいち委員，河野裕彦委員，
　　庄子裕委員，菅井研二委員，髙田淑子委員，田中真美委員，平吹喜彦委員，
　　松田佳歩委員（計10名）
欠席委員　なし
事 務 局　石川館長，温参事兼副館長兼事業係長，久米井主幹兼庶務係長，
　　西海枝主任指導主事，大枝指導主事

議事要旨

１　開会
２　委員紹介・委嘱状交付
３　職員紹介
４　館長挨拶
５　会長及び副会長選出
　〇会長に河野裕彦委員、副会長に菅井研二委員を選出
　〇河野会長が議長となり会議を進行
　〇議長より議事録署名人に田中委員を指名
６　報告事項
（１）新型コロナウイルス感染拡大防止対策について
　〇久米井主幹兼庶務係長から、科学館における新型コロナウイルス感染拡大予防対策について、資料１により説明
　〇大枝指導主事から、３階展示室に設置しているサーモグラフィカメラと、今回新型コロナウイルス対策として３階エントランスに設置したサーマルカメラとの利用方法の違いについて口頭で説明
　３階に展示しているサーモグラフィカメラは、建物診断用であるが、物から出てくる赤外線を分析して熱分布を図として表す装置として利用している。赤外線の量は温度が高いほど増える。その量を測定して、温度が高い方は赤，低いほうにかけて紫になるように色分けして表示できる。展示では、サーモグラフィと呼んでいるこの色分けされた画像をプロジェクターでスクリーンに映している。
　サーモグラフィカメラの大きな特徴は、非接触、触らなくても測定できるというところ、目に見えない赤外線を測定しているので、暗いところでも測定できるところである。その特徴を生かして、例えば医療関係で血流の状態を調べることや、建物の内部の診断、金属が溶けるぐらい高い温度の測定などにこの機能が利用されているということを伝える目的で展示をしている。

３階展示室に設置しているサーモグラフィカメラは、赤外線を利用した熱分析の学習を目的に利用しており、モニターに映った複数人の体温を同時に計測するために３階エントランスに設置しているサーマルカメラとは目的が異なる。それぞれの目的に応じてカメラを使い分けている。

（質問等）

○加藤委員

センサースイッチはまさに科学館らしい取組なので、さらに進めていただきたい。

新型コロナウイルス感染症対策で、これまでは気温が高かったところで館内扉を開放した換気をしてきているということだが、冬場に向けて、科学館の換気のシステムがどの程度なのか参考までに教えていただきたい。

もう１点、新型コロナウイルスの影響で、前年比で見たときにどのぐらいの入館者数になっているか教えていただきたい。

○温副館長

換気については、ここ特別展示室は７、８分くらいで空気が入れ替わる。一番時間がかかるのは３、４階吹き抜けのところで大体12分である。平均すると10分前後であり、密閉状態でも入れ替わる。館内の東西南北に小さい換気用の扉があり、これを開ければもっと早く換気できるため、冬はこれで対応する。電気代もそれほどかからないと見ている。

入館者数については、新型コロナウイルス感染症が流行し始めた２月以降大きく減っている。３月以降は自粛ムードとなり、科学館も市の判断により４月11日から５月18日まで休館した。その後、５月、６月、特に岩手・福島を中心に小学校の修学旅行、校外学習の団体旅行、県内の保育所や幼稚園の園外活動、子供会の遠足などを秋以降に延期したいという申し出をいただき来館者は大幅に減った。　前年比20％台ぐらいまで落ち込んだ時期もあったが、大分動きが出てきており有料入館者で見ると、９月は直近の３年間の平均値と比べて大体８割まで戻ってきている。10月は、22日までで93％となっている。これは４月から６月の団体利用が延期された分も入っている。したがって、年度トータルで入館者数は取り返せないだろうと思われる。

また、平成30年度から統計を取り始めた未就学児童の入館者数は年間２万６千から２万７千人ぐらいとなっており、過去２年比でいくと９月は80％まで戻ってきている。

○河野会長

入り口にあるサーマルカメラは、個人のところにターゲットの枠が出て、そこで色が変わるタイプか。

○温副館長

体温の数字が出てくるタイプである。複数人が同時に映っても各人の額に数字が

出てきて計測が可能である。それを本人はモニターで確認でき、同時に受付のスタッフも確認できる。発熱が確認できた場合、例えば38度と出たら、まず本人に入場するかどうかお考えいただいて、受付からもお声がけすることにしている。

○河野会長

実際にそういう例はあったのか。

○温副館長

今のところは無かったようである。熱がある方には入館を遠慮してもらうということにしているが、実際にはそういう方は来館していない。

（2）夏の企画展・夏の特別科学教室について

○西海枝主任指導主事から、令和２年度特別展代替イベント「夏の企画展と特別科学教室」の実施報告について、資料２により説明

（質問等）

○河野会長

１枚目の左側の写真のテーマは何か。

○温副館長

仙台の商店主だった人たちが立ち上げた昭和初期の頃と思われる七夕まつりの様子で、大町の方から新伝馬町の方に向けて火の見櫓の上から撮ったらしいと言われている写真である。

なお、右側の写真は、四ツ谷用水で、鋳掛屋の人が何か物を洗っており、それを子供が脇から見ている絵である。土橋通のところを流れていた、いわゆる末端の用水の光景である。

ちなみに、夏の企画展「トリックアートでまちめぐり」において台原森林公園に設置したホタルまつりにちなんだ展示物を、現在３階常設展の一角に展示している。

今後、同様に青葉まつりや七夕まつり、四ツ谷用水の展示物についても再利用していこうと考えている。

（3）展示リニューアルについて

○温副館長から、仙台市科学館展示リニューアルについて口頭で説明。

調整中のところがあるので、口頭でご報告する。

これから冬にかけて、新型コロナウイルス感染症とともにインフルエンザも同時流行する心配がある。また新型コロナウイルス感染症の重い後遺症のニュースなどがあり、特に当館のように３密になりやすい屋内施設については、保護者の方、来館する子供たちに感染の懸念がある。

そして、罹患した場合は重症化や家庭内感染について大変懸念があり、保護者の不安感が非常に強いだろうという状況がある。これは去年の今頃には想定もしていなかった事態である。

今年３月、協議会の皆さまに基本設計についてご報告をし、来年の３月までに実

施設計を終わらせるというスケジュールについてもご報告していた。

しかし、現在は大きく状況が変わりつつあり、今後どう展開していくかという見極めが難しい状況である。この状況でコロナ禍前に決めたスケジュールのまま全てを行ってしまうと、まかり間違えば、リニューアル後の展示がその後の社会情勢とずれたものになってしまうかもしれない。そこで、一定の期限はあるが、１年程度事態の推移を見ながら、教育委員会、市長部局、議会とも相談して、スケジュールを見直したいと考えている。

国で来年、新型コロナウイルスのワクチンを全国民へ接種するというような話もあり、１年経って状況がある程度落ち着いてくれば、国民の意識も変わると考えられる。従来のスケジュールを先延ばしするのではなく、前に立てたスケジュールどおりにやらないほうがいい状況ではないかと考えている。

（質問等）

○河野会長

これから先が未定なので様子を見ながら、フレキシブルに対応していこうということだと思うが、よろしいか。

（４）その他

特になし

7　事務連絡

次回の開催日程については、今回と同様にメールで日程調整させていただく。

8　閉会

令和 2 年 12 月 4 日

議事録署名人

仙台市科学館協議会　会長　河野裕彦

仙台市科学館協議会　委員　田中真美